

2018年3月14日

日本銀行大阪支店

関西金融経済動向

【全体感】

関西の景気は、足取りをより確かなものとしつつ、緩やかに拡大している。

輸出は、増加している。設備投資は、増加基調にある。個人消費は、良好な雇用・所得環境等を背景とした家計の支出スタンス改善を伴いつつ、総じてみれば緩やかに増加している。住宅投資は、弱めの動きとなっている。公共投資は、下げ止まりつつある。こうした中で、生産は、増加基調にある。

先行きの景気を巡るリスク要因としては、国際金融市場の動きや地政学的リスクを含む海外経済の動向が挙げられる。

【各論】

1. 需要項目別動向

公共投資は、下げ止まりつつある。

輸出は、増加している。

内訳をみると、情報通信関連や設備投資関連が増加している。

設備投資は、増加基調にある。

個人消費は、良好な雇用・所得環境等を背景とした家計の支出スタンス改善を伴いつつ、総じてみれば緩やかに増加している。

百貨店販売額は、増加している。スーパー販売額は、横ばい圏内の動きとなっている。家電販売額は、緩やかに増加している。乗用車販売は、下げ止まっている。旅行取扱額は、横ばい圏内の動きとなっている。外食売上高は、増加基調にある。

住宅投資は、弱めの動きとなっている。

2. 生産

生産（鉱工業生産）は、増加基調にある。

内訳をみると、はん用・生産用・業務用機械や電子部品・デバイス、輸送機械などが増加している。

3. 雇用・所得動向

雇用・所得環境をみると、労働需給が着実に引き締まるもとので、雇用者数は増加しており、雇用者所得も緩やかに増加している。

4. 物価

消費者物価（除く生鮮食品）の前年比は、0%台後半となっている。

5. 企業倒産

企業倒産は、総じて落ち着いた動きとなっている。

6. 金融情勢

預金残高は、個人預金や法人預金の増加を背景に、前年比3%程度のプラスとなっている。

貸出残高は、企業向けや住宅ローンの増加などを背景に、前年比1%台半ばのプラスとなっている。

預金金利は、低水準で推移している。

貸出金利は、低下している。

以 上